

岩手ふるさと米栽培資料

No. 3 水管理・除草剤散布のポイント

令和4年5月2日

監修：奥州農業改良普及センター 発行：岩手ふるさと農業協同組合

1か月予報

令和4年4月21日発表

| | コメント | 気温 | 降水量 | 日照 |
|-------|---|----|-----|-----|
| 5月上中旬 | 暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の平均気温は高いでしょう。特に、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。 | 高い | 平年並 | 平年並 |

■単収・食味UPを目指して～今月のポイント 基本技術の励行～

- ①水管理：初期生育を確保するため、天候に応じた水管理をしましょう。(活着・分けつ促進)
- ②一発除草剤：使用する一発除草剤を確認し、使用方法に基づき散布しましょう。
- ③カメムシ対策：カメムシの発生抑制のため、畦畔等の草刈りはこまめに行いましょう。

水管理 ポイント①：初期生育を確保するため、天候に応じた水管理を行いましょう(活着・分けつ促進)

1. 移植後の水管理

①生育状況や天候に応じた水管理を行いましょう。

- 1) 活着するまでは、植え傷み等による葉面からの蒸散を防ぐため、深水管理(葉先が2~3cm出る程度)としましょう。
- 2) 活着後の晴れの日は田面が露出しない2~3cm程度の浅水で、地温・水温の上昇を促し、分けつを促進させましょう。
- 3) 最高気温15℃以下の寒い日や風の強い日は5cm程度の深水にして稲を保護しましょう。

天候に応じたこまめな水管理により、早期に有効分けつを確保する事が、収量アップのポイントです!



②昼間止水、夜間^{かんがい}灌漑により生育の促進を行いましょう。

水引きの時間帯は気温と水温の差が少ない夕方から早朝に行い、日中は水を動かさないようにしましょう。

③低温時の注意点：低温が続く場合、時期にかかわらず深水管理とし稲体を保護しましょう。

2. 水の入れ換えが必要な水田(水の入れ替えはしっかり落水してから行う)

- ①青カナなどの藻類が多発する。(有機物の多投、水温20℃前後、少雨で気温が高い)

※水の入れ換えでは改善できないと判断した場合は、「モゲトン粒剤」を散布しましょう。

特別栽培米では使用できませんのでご注意ください。

- ②稲わらや堆肥などの有機物を多投した。転作田を復元した。(ガス湧きが発生)

- ③水持ちが良いために根腐れが発生する。

除草剤 ポイント②：使用する除草剤を確認し、ラベルに基づき散布しましょう

1. 一発除草剤の使用法について

| 商品名 | 剤型 | 10aあたり使用量 | 使用時期 | 使用方法 | 水深 |
|-------|-------------------|-----------------------|-----------------------------|--------------------------|------------|
| アップレZ | 1 ^キ 粒剤 | 1kg(1袋) | 移植直後~ノビエ3葉期 ただし移植後30日まで | 湛水散布 ※田植同時処理可能 | 5cm 以上 |
| | フロアブル | 500ml(1本) | | 湛水散布 ※水口施用可能 | 5cm 以上 |
| | ジャンボ | 400g (小包装(パック)10個) | 移植後3日~ノビエ3葉期 ただし移植後30日まで | 湛水散布 (小包装のまま投入) | 10cm 以上 |
| | 400FG | 400g (1袋4kg入:1ha分) | | 湛水散布、湛水周縁散布又 は無人航空機散布 | 5~ 10cm |

1) 天候によっては、ノビエの発生が早まることが予想されますので早めに散布しましょう。

2) 代掻き後の日数とノビエの葉齢を確認し、適期に除草剤散布を行いましょう。

※その他特別栽培米・ふるさと純情米で使用できる除草剤については、「春肥料施肥設計指導会資料(水色の冊子)」をご覧ください。また、使用方法等はラベルを参考にしてください。

2. 一発除草剤の有効な活用方法

①漏水田・砂壤土の場合(水持ちの悪い水田)は、粒剤の散布をお勧めします。

②代掻き後からの日数や雑草の発生状況を考慮し、代掻き後10日以内に散布しましょう。

③藻類が発生した場合は、除草剤が拡散しにくくなるため、早めに散布しましょう。

④散布後少なくとも3~4日間は湛水状態を保ちましょう。

⑤散布後1週間程度は農薬が流出しないよう止水としましょう。

⑥中干し前までは、湛水状態を保ち田面を露出させない水管理をしましょう。

植え直しについて

欠株や一本植えの株が生じても隣の株が大きくなり、水田全体では茎数の密度が調整され収量にほとんど影響しません。連続5株以上の欠株の場合を除き植え直しの必要はありません。

除草剤を散布した後に、植え直しのため水田に入ると除草剤の処理層が壊れてしまい、雑草の発生を助長させる原因となります。植え直しはしないようにしましょう。

葉いもち防除

①取り置き苗は、葉いもちの発生原因になるので本田には置かず、田植えが終わりしだい埋没等の処分をしましょう。

②例年いもち病が多発する圃場については、防除やいもち病の初発に十分に注意しましょう。

③多肥や復元田などで稲の生育が旺盛な圃場は、いもち病が発生しやすいので圃場をよく観察しましょう。

カメムシ対策 : ポイント③カメムシの発生抑制のため、畦畔等の草刈りはこまめに行いましょう!

畦畔等のイネ科雑草を出穂させないことで、カメムシの発生密度を低減させることができます。カメムシ抑制対策として、畦畔・農道・法面等の草刈りをこまめに行いましょう。また、水田内にイネ科雑草があると、カメムシの発生源となりますので中後期除草剤で雑草防除を行いましょう。

カメムシ越冬世代のふ化盛期が今後の天候によっては早まることが予想されます。
ふ化盛期を目安に地域全体で草刈りを行い、カメムシの発生密度低減に努めましょう。
《ふ化盛期》 江刺地点 昨年：5月26日 平年：5月26日

5月25日頃までに草刈り作業を行いましょう!!

■ 水稻の栽培、農薬使用等に関するお問い合わせは…

「胆沢地域センター営農経済課」 47-0031

■ 生産資材・生活資材のご注文・配達…

「拠点配送センター」 0120-516-911

(フリーダイヤル“0120”を忘れずに!!)

■ 生産資材等の直取り・窓口供給は…

「胆沢資材センター」 47-1612

営業時間(平日) 午前8:30~午後5:00

◆ 繁忙期対応について《4月、5月》 ※但し、祝祭日は休業

土曜・日曜 午前中営業(8:30~12:00)



<5月の稲作指導会は開催いたしませんのでご注意願います。>